市全体

回答率 73.1

% 小学校回答率:79.8% 中学校回答率:66.6%

研修受講後のアンケートへの回答率は市全体で
ア

※その他の項目は、SC、SSW等以外に、項目に

ない分掌の記載(音楽専科、児童・生徒支援Co

など) や、分掌をまたいでおり、複数選択してい

校務分掌からみると、まんべんなく受講している

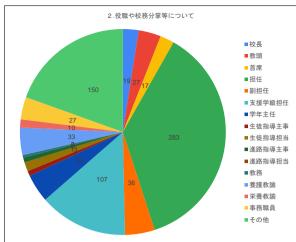
て、実施時期や周知方法の工夫に加え、各校にお

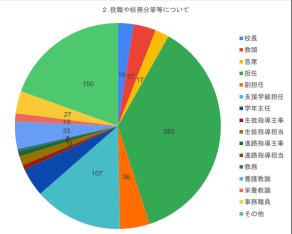
いて、いじめ対応にかかる課題が教職員全体の認

識になっていないとともに、管理職を含めた校内

対策委員会等による研修の必要性の発信にも課題

が、中学校において66.6%の結果の要因とし





3.今回の研修を受講後の、「いじめ発生時の初期対応について」に対するご 自分の認識について

がある。

結果

3.1%

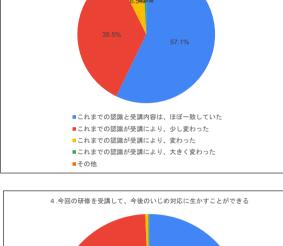
るものの数

分析

これまでの認識と一致していたという回答は、全 体の57.1%、認識が変わったという回答は4 28%であった。

### 分析

全体の92.6%の教職員が、自身の認識について これまでと一致、あるいは少しのみの変化である と回答しているが、事案の重篤化や長期化、重大 事態件数の市内過去最多から、いじめ事案に対す る初期対応や、校内体制の構築にも課題があるた め、今後校内体制の見直しにかかる指導助言と併 せて、いじめ対応チェックリストのさらなる浸透 を図る必要がある。



# 結果

99.4%の教職員が、今後のいじめ対応に生かす ことができると肯定的に回答した。

項目の内、「全くあてはまらない」と回答した理 由に、「児童生徒の指導は業務外」、「これまで と対応は変わらないため」、「すでに知っていた ため」、「用語の解釈や捉え方で認識が変わり理 解に届かない部分がある」、「情報とアセスメン トの相違、何を以てアセスメントを行い事例や現 象の判断に繋げればよいかが語られていない」な どの回答があった。

いじめへの初期対応の重要性は感じつつも、対応 の具体がイメージできず、初期対応に課題がある という仮説が立てられる。校内いじめ対策委員会 などを中心に、平時からの対応シミュレーション や、対応チェックリストを活用した研修等による 知識と対応への構えが必要。



### 〇アンケート結果より

教職員のいじめの認知機能やいじめ対応等についての知識の向上及びその必要性についての認識力の 向上は図られているが、組織としての対応力の強化と、教職員のいじめ対応に対する感度の向上ととも に、具体の対応シミュレーションなど、いじめ対応全般を支える組織基盤の強化が必要。 各校において組織的対応をすすめ、いじめを予防したり、早期発見・早期対応し、事案の重篤化を防ぐ ことにつなげる。

## ○今後の取組み

- ① 研修実施にかかる時期の再検討
- (2) いじめ対応チェックリスト活用の推進
- 3 いじめ対応にかかる事例集の作成と周知
- 4 市学校支援チームによる、校内組織の見直しについての助言
- (5) 各校におけるいじめにかかる研修内容の把握